

お品書き
 【その言】CODEレター VOL.23
 【その式】プロジェクトニュース
 【その参】CODEが掲載された主な記事

以上

CODE海外災害援助市民センター発行
 〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
 TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693
 e-mail: info@code-jp.org URL http://www.code-jp.org/
 郵便振替 : 00930-0-330579

2005年度総会報告

5月17日(火)、神戸YMCAにて2005年度総会が開催されました。2003年12月に特定非営利活動法人(NPO法人)の認証後、2回目の総会です。

議案である2004年度の事業報告・決算、2005年度事業計画・予算について審議が行われ、すべて承認されました。また、役員改選も前年度から引き継ぎ、承認されました。

2005年度の主な事業予定をご紹介します。

災害救援活動として、ｲﾝﾌﾗ支援、ｱﾌｶﾞﾆｽﾀﾝ支援など継続支援中の救援ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄは、引き続き取り組みます。2004年12月からスマトラ沖地震津波支援を始め、防災教育、住宅支援や女性支援などｽﾘﾗﾝｶ・ｲﾝﾄﾞネｼﾞｱ・ﾀｲ・ﾚｰｼﾞｱ・ｲﾝﾄﾞのそれぞれの地域で活動を行います。

また、支援が必要とされると判断される災害が発生した場合は、随時救援活動を立ち上げていきます。

セミナー・勉強会として、NGO各分野の講師を招き、NGOについて考え学ぶ『NGOことはじめセミナー』や、神戸市内にある国際機関を訪問する『HAT神戸 国際機関訪問ツアー』を行います。CODEボランティアの定着化をはかるため、毎月第三日曜日にボランティアの日を設定します。

また、災害関連情報の収集及び発信事業として、災害情報サイト(CODE World Voice)の運営も引き続き行います。

最後に、当センターの運営は、皆様からの会費やご寄付、助成金などから成り立っております。CODEは発足し2年が経ちましたが、財政面につきましては、正直なところ未だ盤石とは言えません。今後ともみなさまからのご支援、ご協力のほど宜しくお願い致します。

< 2005年度運営体制 >

- 代表理事 : 芹田 健太郎 神戸大学名誉教授/愛知学院大学教授
 副代表理事 : 室崎 益輝 神戸大学名誉教授
 副代表理事 : 水野 雄二 (財)神戸YMCA総主事
- 理事 : 黒田 裕子 支援プログラム部会長/阪神高齢者支援ネットワーク理事長
 理事 : 島田 誠 アートサポートセンター神戸代表
 理事 : 西 正興 (株)神戸スイーツポート相談役
 理事 : 野崎 隆一 ガイドライン部会長/神戸まちづくり研究所事務局長
 理事 : 秦 正雄 市民参画部会長/コープこうべ常勤理事
 理事 : 榛木 恵子 人材育成部会長/関西NGO協議会事務局長
 理事 : 藤野 達也 (財)PHD協会総主事代行
 理事 : 松本 誠 市民まちづくり研究所所長
 理事 : 村上 忠孝 財務部会長・村上環境住宅研究所所長
 理事 : 吉富 志津代 多言語センターFACIL代表
- 監事 : 中川 和之 (株)時事通信社メディア編集部
 監事 : 飛田 雄一 (財)神戸学生青年センター館長
- 理事兼事務局長 : 村井 雅清 被災地NGO協働センター代表

本年度もよろしくお願い致します!



2005年度総会の様子

2004年度災害救援プロジェクト報告

イラン地震救援プロジェクト(2003年12月26日~)

2003年12月26日に発生した地震の被災地、イラン南東部バムへの支援が開始後1年を経過。2004年度の活動としては、現地のカウンターパートであるAHKK(働く子どもを守る会)での幼稚園音楽教師育成トレーニングを行った。そして、震災復興のシンボルとして神戸で歌われ続けている「しあわせ運べるように」のペルシア語版を作り、神戸とバムの文化的交流を行った。また、2004年11月2日にはイラン政府、国連地域開発センター(UNCRD)、ネパールNGO・NSETと協働し、バム市内において「コミュニティにおける耐震建築普及ワークショップ」を開催、振動実演を行い、地元住民、政府関係者、学生など約300名の参加があった。AHKKセンター移転に伴い、新ホールの建設をCODE、NVNAD共同で支援を行った。また、被災地の子どもたちへの交流プロジェクト「小さな絵描きたち~被災地バムの子どもたちが見た風景~」被災地交流実行委員会に加盟し、参加した。

2004年度寄付金 13,461,757円

アフガニスタン救援プロジェクト(2002年7月17日~)

2002年7月に立ち上げたアフガニスタンぶどう畑再生プロジェクトは、3度目の春を迎えることとなった。大統領選挙などに関連して治安状況が不安定であったため、2004年度は6月以降、現地を訪れることができなかった。しかし、カウンターパートから随時報告があったため、海外送金などを利用し、現地のプロジェクトを支援し続けた。現地では昨年貸し付けを行った家族からぶどう基金への一部返済が始まった。これまでのぶどう基金の貸し付け家族は288世帯。その中で120世帯が6000ドル相当額をぶどう基金に返済した。そして、そのお金を新たに113世帯へ貸し付けた。3年目を迎えようやく、ぶどう基金が地域で広がりはじめた。日本国内でのぶどう畑再生プロジェクト会員獲得については、少しずつではあるがプロジェクトに賛同し、会員になって下さっている方々が多くなっている。

2004年度寄付金 アフガニスタン本体 226,182円

ぶどう基金 2,396,662円 ぶどう基金総会員数 428人

中国ウイグル地震救援プロジェクト(2003年2月24日~2004年12月31日)

華僑総会にウイグル地震募金を全額振込みプロジェクトを終了。

2004年度寄付金 250,000円

トルコビンギョル地震救援プロジェクト(2003年5月1日~2004年12月31日)

愛と望みのネットに支援募金を全額振込み、プロジェクトを終了した。

2004年度寄付金 0円

アルジェリア地震救援プロジェクト(2003年5月23日~)

引き続きケレックメシコケテル口住民連絡会議・CODE海外研究員を通じて支援し、適当なカウンターパートが見つかり次第用途を検討。

2004年度寄付金 250,000円

タイ・バンコクスアンブルー火災救援プロジェクト(2004年12月26日~)

2004年4月23日タイ・バンコクスアンブルースラムにおいて火災が発生。阪神・淡路大震災の時、このスラムの住民より(社)ジャパン国際ボランティア協会(SVA)を通じて寄付金が届けられた経緯がある為、

SVAへ寄付金を託した。 2004年度寄付金 123,712円

スマトラ沖地震津波災害救援プロジェクト(2004年12月26日~)

2004年12月26日にスマトラ沖にてマグニチュード9.4の大地震が発生した。それに伴いインド洋に大津波が発生し、各国に多大な被害をもたらした。CODEとして12月31日~1月7日にかけてスタッフ2名を第1次被害調査のためスリガへの派遣を行った。その後第2次調査2月23日~3月4日を行った。今後の支援として子どもの防災教育、漁業支援、女性自立支援を中心に支援を行うことが確認された。(現況はプロジェクトニュースをご覧ください。)

2004年度寄付金 11,757,692円

イラン・ザランド地震救援プロジェクト(2005年2月22日~)

2005年2月22日に発生したイラン・ザランド地震に対して、バム救援活動のため滞在しているAHKKスタッフ2名を直後に現地派遣を行った。緊急援助要請はなかったため、今後、復興支援をAHKKとの連携して行う。

2004年度寄付金 112,330円

4月の活動記録 4/1~4/30

- 4/6~18 第3次スマトラ沖地震津波調査(村井・飯塚)
- 4/10 スマトラ沖地震津波報告会(神大COE)(斉藤)
- 4/13 スマトラ沖地震津波報告会(宝塚Y'sメックスクラブ)(斉藤)
- 4/15 コープ神戸スマトラ沖地震津波支援金授与式(芦田)
- 4/16 アイテック海外派遣事業面接官派遣(斉藤)
- 4/21~27 第4次スマトラ沖地震津波調査(村井・斉藤)
- 4/24 CODEボランティアの日(飯塚)
- 4/28~5/9 第9次アフガニスタン調査(村井・斉藤)

ありがとうございます 4/21~5/20

会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

一般寄付

個人: 阪井健二(大阪府)、細谷岳彦(兵庫県)、三島宣彦(東京都)

団体: カトリック豊中教会(大阪府)

会員

正会員

個人: 中村 稔(大阪府)、芦田健太郎、野崎隆一、橋口文博、松本 誠、牧田 稔、草地とし子、吉富志津代(以上兵庫県)

賛助会員

個人: 阪井健二(大阪府)、飯塚 節、森脇慎也、岡本牧子(以上兵庫県)、渡辺正幸(茨城県)、細谷祐司(奈良県)

編集・発行 CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通2丁目1番10号

TEL: 078-578-7744 FAX: 078-576-3693

e-mail info@code-jp.org URL http://www.code-jp.org/

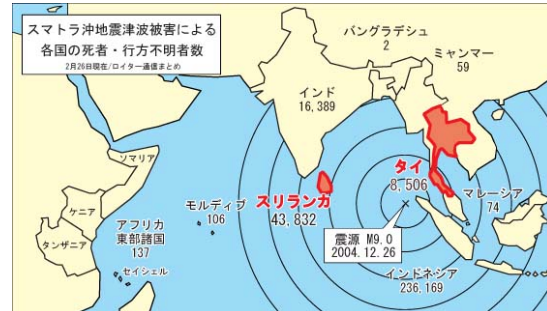
郵便振替: 00930-0-330579

CODEはメールリストを通じて情報の発信も行っています。参加ご希望の方はHPよりご登録下さい。

CODE のスリランカ・タイにおける復興支援活動

1. はじめに

スマトラ沖地震津波被害に対する復興支援活動におきましては、これまでに日本国内の団体・個人の皆様から温かいご支援を頂いております。CODE 海外災害援助市民センター（以下 CODE）は、スリランカ・タイで以下のプロジェクトを現在行っています。



2. 復興支援活動について

スリランカ

CODE は現場のニーズと CODE の経験を活用し、4つの支援 防災教育 建設支援 漁業支援 女性の自立のための支援 に取り組む予定です。その中の3つの支援が具体化されていますのでここに紹介します。



防災教育

現地パートナー	スリランカ YMCA
場所	カルムナイ YMCA (タミル語) と マータラ YMCA (シンハラ語)
対象	被災した子どもたち / 両親
目的・内容	日本で津波防災教育として知られている紙芝居や絵本等を使って、スリランカの被災した子ども達と一緒に津波の教訓や命の大切さを学ぶことが目的です。また、世代を継承する子どもたちが、防災教育を通して「命の尊さ」を大人たちに伝えることにより、子どもたちが安心して安全な地域づくりの主役にもなることも期待もあります。 子どもたちが YMCA に来て話を聞いて帰るだけでなく、話の要約と津波の

	基本的な知識が欠かれた小さな冊子を参加した子どもたちに配る予定です。その冊子を子どもたちに配ることによって、津波の教訓や知識を再度確認し、家に帰って家族の人に伝えるという効果があると考えています。
進捗状況	日本の物語は、専門家によりシンハラ語とタミル語に翻訳されました。それをもとに YMCA のスタッフやボランティアスタッフが紙芝居、読み聞かせ、劇を通して子どもたちに伝える予定です。
その他	さらに、「お・は・し・も」の歌のスリランカバージョンも CODE の防災教育に取り入れる予定です。「お・は・し・も」の歌というのは愛知県知多郡布土小学校で創られた地震直後の避難を訓練するために使う歌で、地震が来てもパニックにならず避難できるように「お=おさない、は=はしらない、し=しゃべらない、も=もどらない」と歌ったものです。3月27日の余震で、津波が来なかったが、パニックになり心臓発作で亡くなった人を見ると、パニックにならず避難することを伝える教育が必要であると考えています。

建設支援： 幼稚園再建

現地パートナー	TSUNAMI RELIEF & REBUILDING FOUNDATION FOR CHILDREN AND WOMEN (以下 TRRFCW) SRI LANKA 女性と子どものための津波復興支援財団(仮訳)
場所	アカライパトゥ
対象	被災した子どもたち
目的・内容	幼稚園教職員ネットワークは、スリランカの被災地で100軒の幼稚園を建設する予定です。幼稚園建設を選んだ理由は、津波で多くの幼稚園が破壊されてしまったうえ、主要な援助機関は、主に公立の小中学校の建設を支援し、90%が私設であるスリランカの幼稚園には、支援が行き届かないからです。幼稚園建設には、1軒につき30万ルピーから35万ルピー(30万から35万円)かかり、だいたい20人から25人またはそれ以上の子どもたちが利用することができます。先生は2人で、被災地で募集されます。先生には、1年間分の給与が財団から出ることになっていますが、1年後は自分たちで運営し、日常生活パターンに組み込まれる予定です。 この建設にあたって、阪神・大震災以降培ってきた神戸の経験をもとに、CODEの関係者である建築家や都市計画の専門家の知識を活用し、災害に強い幼稚園を作るということを4月に現地で提案しました。その結果、現地の専門家によって書かれた幼稚園の設計図面を、神戸の専門家に見せて、助言をもらった上で、現地で建設することになりました。その幼稚園がモデルハウスとなり、災害に強い幼稚園がスリランカで普及することを期待しています。
進捗状況	アカライパトゥでは、幼稚園建設のための土地はすでに獲得しました。幼稚園1軒という単位から(50万~70万円円程)支援してくれる団体、個人を現在日本で募っています。

漁業支援

現地パートナー	Union Fishermen's & and Fish workers' Congress (以下 UFFC) 漁師と漁業労働者の協同組合(仮訳)
場所	サムドラガマ(トリンコマリ)
対象	被災した漁師
目的・内容	<p>12月26日に発生した津波で、大きな被害を被った漁師達が1日でも早く仕事を再開することは、被災地の復興における最優先課題の1つです。もともと漁業労働者は社会的に虐げられている人々が多く、津波後その状況はますます悪化しました。そのような状態を受けて、CODEはUFFCと連携して被災地域で漁業協同組合を設立することになりました。</p> <p>協議の結果、ボート1隻を個人が所有するのではなく、協同組合が共同所有・共同管理することに決まりました。国際NGOの中には、船や網を漁師に無償で配布しているところもありますが、協同組合の形式を取り入れ、あくまで被災者のエンパワーメントを高めようとするのが目的です。無償で船や網を提供することの弊害は、そのプロセスに被災者の意思や主体性が入らないことにあると考えています。</p>
進捗状況	支援地域は、サムドラガマという名前の漁村に決まりました。サムドラガマはスリランカ東部海岸のトリンコマリ地区に位置し、400所帯が住んでいます。津波で全ての家屋が全壊し、約75人が亡くなりました。住民は家族や家、漁業の道具を全て失いました。生き残った住民の中にはトラウマの症状がある人もいます。

タイ

タイでは、(社団)シャンティ国際ボランティア会(SVA)と防災教育をする予定です。

防災教育

現地パートナー	(社団)シャンティ国際ボランティア会(以下 SVA)
場所	SVA が運営する被災地のコミュニティ図書館等
対象	被災した子どもたち
目的・内容	SVA は1980年からタイで活動する日本の NGO で、特に「読み聞かせ」を中心とする図書館活動をバンコクのスラム等で行っています。津波後は、12月に救援物資配布活動、1月からは仮設住宅や避難所で移動図書館活動を行っています。タイで長年の実績がある SVA に防災教育の実施を任せてい

ます。SVA は「稲むらの火」をタイ語で絵本のかたちで出版し、住民や子どもたちに正確な知識を伝える予定です。出版にあたっては、独自に「津波」に関する説明も掲載し、少しでも「津波」に関しての正確な知識を得られるように配慮する予定です。

防災教育に関しては、インドネシア、インド、モルディブ、マレーシアについても実施できたらと考えております。現在のところは、上に挙げた3つの分野においてスリランカとタイで支援を行っております。

3. 最後に

最後になりましたが、CODE は一般市民の皆様の貴重なご寄付によって海外でのプロジェクトを行っています。阪神淡路大震災の経験をもとに、日本で支援をしてくださっているみなさま1人ひとりの気持ちを大切にしながら、本プロジェクトがスマトラ沖地震津波の被災者の復興につながるように、今後とも支援していきます。

CODE のプロジェクトに関する情報は、主にホームページ(<http://www.code-jp.org/>)、メーリングリスト(ホームページより登録可)、CODE Letter(会報誌)がありますので、ぜひご利用ください。また、ご希望がありましたら、可能な限りスタッフがみなさまのところに出かけて直接お話しして、被災地と日本のみなさまの心をつなぐ糸口になればと考えています。お気軽に事務局までお申しつけください。

今後ともご指導、ご支援の程、よろしくお願い致します。

連絡先：CODE 海外災害援助市民センター事務局

〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通 2-1-10

TEL:078-578-7744 FAX:078-576-3693

URL:<http://www.code-jp.org/> e-mail:info@code-jp.org

スマトラ沖大地震・津波被害救援募金にご協力ください。

郵便振込：00930-0-330579

加入者名：CODE

通信欄に「スマトラ沖地震」と明記してください。

募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充てさせていただきます。